

岐阜工業高校 『いんたびゅー・れっすん』

◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽

岐阜工業高校さんは、「迫力ある演技賞」です

普通の会話での空気感が自分の問題を話すシーンになるとパッと入れ替わり、別人の様に見える演技が出来ていました。役者の演じ分けに感動したからです。

放課後の面接練習に集まった就職希望の生徒たち、担当の先生の都合が悪くて、教育実習生が指導することになりました。時間前に来て真面目に受けようとする真面目な生徒もいれば、遅刻、服装のだらしない生徒も、ため口の生徒もいます。腰掛け方もとても面接を受けるような座り方ではない生徒もいます。そこら辺のキャラが立っている演技がよいと思いました。やはり教育実習生が担当ということで、本音が出ているところが面白いと思いました。

そしてニセモノの面接練習(?)が進むうちに、普段友だちに見せているキャラを作った自分とも違う、さらに深い本音、自分の抱えている過去や苦しみ、家庭の事情やそこから来る面接にかける意気込みが、本当の面接練習だったら出てこないものとして、出てくるところがよいと思いました。さらに教育実習生の学生もつられて(?)自分を語ってしまいます。先生だけど先生じゃない自分。自分が教員でいいんだろうかという悩みを語ります。

たまたまこの面接会場に集まった彼らは、学科、クラス、生徒と教員の垣根を越えて共感します。共感してアドバイスし合います。彼らは同じ就職先を目指しているライバルなんだけれど、共感し励まし合って、またもとの自分に戻っていきます。たった一時間程度の連帯だけれど、心の内を話す大切さ、聞いてくれる人のいるあったかさが胸にしみました。最後少しあっさりしすぎじゃないか、という意見もありましたが、そこがリアルでいいかなと思います。

面接練習という、外向きの自分を作っていく機会が、自分のリアルな現実、隠していた本音の自分をさらすことになり、それは普段作っている仲間向けの自分も壊して、共感して、また現実に戻っていく。とても素敵な面接練習でした。こんな面接練習があったらいいな、と思いました。

岐阜工業高校の皆さん、お疲れ様でした。

◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽ ☆ ◎ □ △ ○ ▽